

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（分担）研究報告書

効果測定のための基礎資料の信頼性に関する研究

研究分担者 和田 一郎 獨協大学

研究要旨：医療費に影響を与える要因等を調査するために、ウェブ調査で作成したデータベースについて新たに多面的な質問項目を追加して検討をおこなったところ、信頼性に課題があるケースが約9%みられるなど、調査における設計の重要性が示唆された。

和田一郎・獨協大学教授

A. 研究目的

セルフメディケーション税制による医療適正化効果における調査において、より良い研究デザインや分析の参考になるような基礎資料を得ることが目的である。人々のこれまでの経験や属性が調査協力や調査の信頼度に影響を及ぼす可能性があるために、社会福祉の視点から研究班内での検討をおこない作成された手法によるウェブアンケート調査を行い、回答の信頼度や医療費に関連する要因についての基礎資料を作成することを目指した。

B. 研究方法

本研究は、日本における子どもへの不適切な養育（マルトリートメント）による社会・健康格差評価研究-JSAPA(The Japanese Survey on Interaction of Adverse and Positive childhood experience towards Adulthood)において、本研究用に新たにデータベースを作成した。これまでのJASAPAのデータベース（ACE及び属性）にさらに質問内容を変更した多面的な質問項目を追加して、回答の信頼性を測定した。また測定した信頼性による集団比較をおこない、信頼性に影響を及ぼす可能性のある因子等を検討した。

C. 結果

全解答数434ケースのうち、38ケース（8.8%）について信頼性に課題が見つかった。単純項目よりも多面的な質問項目での回答が信頼性を高めることが判明した。

D. 考察

これまでの研究によると学歴が低いことや年齢層が最も若い/高齢グループに信頼性が低くなることが明らかになっていたが、今回の研究では、回答者における、“父からのACE歴”、“児童相談所歴”、“一時保護歴”の有無について信頼性に違いが見られ、ACE歴による医療費や生活の満足度が異なる事が分かった。

E. 結論

本調査により信頼性をあげるための課題やその対応策についての基礎資料が集まった。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし  
（予定を含む。）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし